

2021/9/26 11:00~17:15

IOS（包括的矯正歯科研究会）2021年 第三回例会 抄録

教育講演1 11:05~12:35

演者 包括的矯正研究会 (IOS) 代表 綿引淳一 先生
平沼貴大 先生

矯正治療と歯内療法の連携における問題点と解決法を考える

Consider problems and solutions in cooperation between orthodontic treatment and endodontic treatment.

国内においては、先進国に比べてまだまだカリエスが多く、根管治療は日常治療である。近年、矯正治療を希望する成人患者の増加に伴い、根管治療を行っている歯を持った方が矯正治療を希望する例は非常に多い。

しかしながら、現代の歯内療法学は、矯正治療を行う事を前提に考えられておらず“オルソエンド”に関する情報は、驚くほどに少なくエビデンスの蓄積が圧倒的に不足している。一方、オルソエンド分野は、根管治療以外にも、歯の移植や矯正移動における歯髄反応、歯根吸収、アンキローシスなど想像以上に広い。特に、適応能力が低下した成人矯正においては、顎関節、歯周病の問題と同様にエンド領域全体のリスクが増加すると考えられ、今後無視できない問題となってくると思われる。

そこで、本講演では、包括的矯正治療の実践にあたり必要不可欠となるオルソエンドに関する知識の整理と課題、そして IOS が考えるオルソエンド分野に関するガイドラインを会員と共有したい。

会員発表1 14:10~15:55

演者 榊原毅 先生

歯列不正、欠損を含む複雑な症例における包括的治療計画の立案

欠損、歯列不正のある全顎的歯科治療が必要な複雑なケースにおいて、治療計画の立案は考慮すべき事項も多く、非常に複雑で難しい。

そしてその治療計画が治療の成否を決めることになる。

今回そのような症例において、アナログとデジタルのセットアップを用いながらIOSのコンセプトに基づいた全顎的な診断・治療計画立案を行った。

包括的歯科治療を行う上で非常に有用と思われるIOSの提唱する診断のコンセプトを会員の皆様と共有したい。

(略歴)

榊原 毅

1994年 東京医科歯科大学 歯学部卒業

医療法人社団港央会 理事長 さかきばら歯科 院長

(所属)

包括的矯正歯科研究会 (IOS) 副代表

日本口腔インプラント学会 専門医

日本歯周病学会 認定医

日本矯正歯科学会 会員

会員発表2 16:10～16:55

演者 南保友樹 先生

上顎前突症例に対する早期治療の有効性とエビデンスの検証

混合歯列期の骨格性上顎前突症の治療は、矯正治療の中でも頻度の高い処置である。矯正治療には、混合歯列期に小児矯正（Ⅰ期治療）を行い、永久歯列期に本格矯正（Ⅱ期治療）を行う2-phase treatmentと、永久歯列期から本格矯正（Ⅱ期治療）のみを行う1-phase treatmentに大別される。

従来、混合歯列期における治療のメリットとしては、歯列だけではなく骨格的な発育のコントロールを行うことが出来る、とされていた。しかしながら近年、混合歯列期での骨格性上顎前突症の治療において、その有効性を疑問視する意見が増えている一方で、混合歯列期での矯正治療自体を完全に否定するまでには至っておらず、矯正専門医の見解も分かれている。

そこで今回、実際の骨格性上顎前突症に対する2-phase treatmentと1-phase treatmentの症例をご覧いただき、さらに最新の論文を検証することで、エビデンスに基づく客観的な視点からその是非について皆様と考えたい。

(略歴)

南保友樹

2005年 昭和大学 歯学部 卒業

2006年 昭和大学歯科矯正学講座 入局

2010年 昭和大学歯学部大学院 歯科矯正学博士課程修了 歯学博士取得

2012年 日本矯正歯科学会 認定医取得

2013年 なんぼ歯科クリニック新百合ヶ丘 開院

(所属)

包括的矯正歯科研究会 (IOS)

Teeth Alignment The Specialist (会長)

日本矯正歯科学会 (認定医)